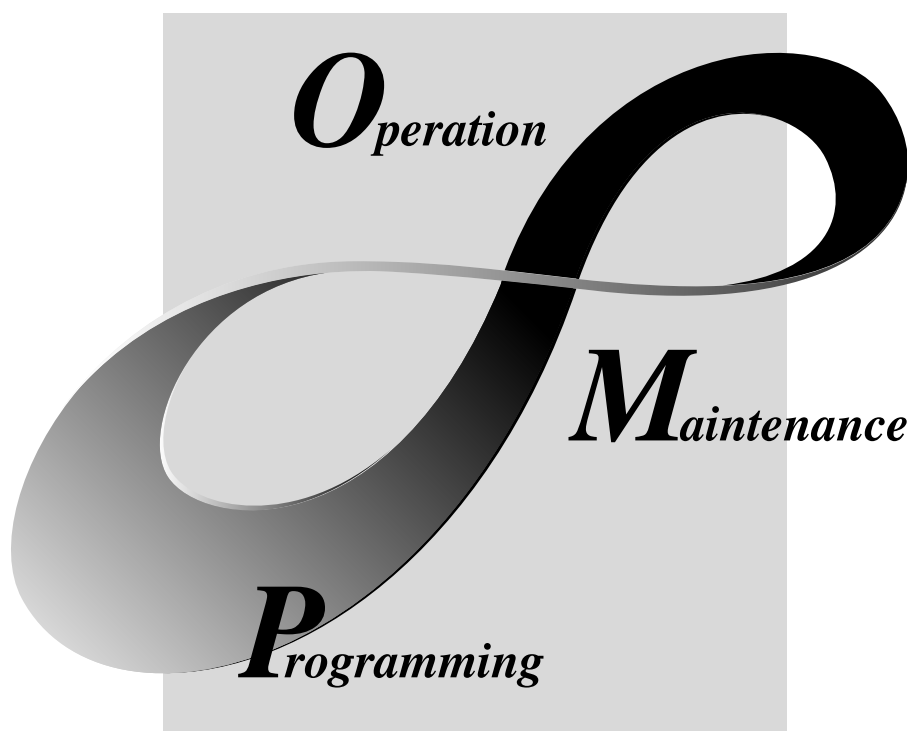


GX Configurator-DP

オペレーティングマニュアル

mitsubishi

(CommDTM編)



統合FAソフトウェア
MELSOFT

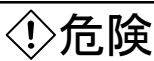
● 安全上のご注意 ●

(ご使用前に必ずお読みください)

本製品のご使用に際しては、本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は、本製品に関するもののみにについて記載したものです。シーケンサシステムとしての安全上のご注意に関しては、使用するCPUユニットのユーザズマニュアルを参照してください。

この●安全上のご注意●では、安全注意事項のランクを「危険」、「注意」として区分してあります。




危険

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。



注意

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に、必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

改定履歷

※取扱説明書番号は、本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※取扱説明書番号	改 定 内 容
2005年 8月	SH(名)-080581-A	初版印刷

本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については、当社は一切その責任を負うことができません。

は じ め に

このたびは、三菱総合FAソフトウェアMELSOFTシリーズをお買い上げいただきまことにありがとうございました。
ご使用前に本書をよくお読みいただき、MELSOFTの機能・性能を十分ご理解のうえ、正しくご使用くださるよう
お願い致します。

目 次

安全上のご注意	A- 1
改 定 履 歴	A- 2
目 次	A- 3
マニュアルについて	A- 5
用語の意味と内容	A- 6

1 概 要	1- 1~1- 2
--------------	------------------

1.1 FDT/DTMとは	1- 1
1.2 QJ71PB92V用通信DTM	1- 2

2 はじめる前に	2- 1~2- 2
-----------------	------------------

2.1 詳しい情報について	2- 1
2.2 ハードウェア設定	2- 1
2.3 ソフトウェアの準備	2- 2

3 システムの動作環境	3- 1~3- 2
--------------------	------------------

3.1 動作環境	3- 1
3.2 ソフトウェア要求条件	3- 2
3.3 著作権	3- 2

4 MELSOFT PROFIBUS CommDTMのインストール・アンインストール	4- 1~4- 2
---	------------------

4.1 ソフトウェアのインストール	4- 1
4.2 アンインストール	4- 2

5 通信DTMの使用方法	5- 1~5-11
---------------------	------------------

5.1 DTMカタログをアップデート	5- 1
5.2 通信DTMをFieldCareプロジェクトへ追加	5- 2
5.3 通信DTMの設定（“Transfer Setup”）	5- 3
5.4 新規ネットワーク経路の定義	5- 4
5.4.1 ネットワーク名	5- 5
5.4.2 ユニットの選択	5- 5
5.4.3 ネットワークの選択	5- 6
5.5 デバイスの追加	5- 7
5.6 オンライン接続	5- 9
5.7 追加機能	5-10
5.7.1 プロジェクトが管理するスレーブ局のFDLアドレスを変更	5-10
5.7.2 スレーブ局にダウンロードされたFDLアドレスを変更	5-11

- 6.1 DTMカタログをアップデート後、インストールした通信DTMがリスト表示されない 6- 1
- 6.2 QJ71PB92Vへの接続に失敗する 6- 1
- 6.3 デバイスDTMが対応するスレーブ局に接続できない 6- 1
- 6.4 スレーブ局のFDLアドレスの設定に失敗する 6- 2
- 6.5 実行中だったスレーブ局との通信ができなくなる 6- 2

マニュアルについて

本製品に関連するマニュアルには、下記のものがあります。
必要に応じて本表を参考にしてご依頼ください。

関連マニュアル

マニュアル名称	マニュアル番号 (形名コード)	標準価格
GX Configurator-DP Version7 オペレーティングマニュアル GX Configurator-DP Version7の概要、インストール方法、画面操作などについて説明しています。 (別売)	SH-080580 (13JV85)	¥3,000
PROFIBUS-DPマスタユニットユーザーズマニュアル (詳細編) QJ71PB92Vの概要、システム構成、仕様、機能、運転までの手順、プログラミングおよび専用命令について説明しています。 (別売)	SH-080571 (13JP81)	¥3,000

用語の意味と内容

本マニュアルで使用する用語の意味と内容について説明します。

用 語	用語の意味
DTM (Device Type Manager)	FDTを使用する場合に、通信設定およびスレーブ局のパラメータなどを定義するファイルです。 通信DTMとデバイスDTMとで構成されています。
通信DTM	通信DTMは、Communication DTMの略称です。 マスタ局を経由する時に必要となる通信設定を定義するためのファイルです。
デバイスDTM	デバイスDTMは、Device DTMの略称です。 スレーブ局に設定するパラメータなどを定義するためのファイルです。
GX Configurator-DP	QJ71PB92V用のコンフィグレータ。 製品形名SWnD5C-PROFID-Eの総称製品名。(n=7以降)
QJ71PB92V	製品形名QJ71PB92V、PROFIBUS-DPマスタユニットの略称。
DP V0	周期的な入出力データ交換のためのPROFIBUS-DPフィールドプロトコルのプロファイルです。
DP V1	マスタ局からスレーブ局への非周期な読出し／書込みをサポートするPROFIBUS-DPフィールドプロトコルのプロファイルです。
FDT (Field Device Tool)	DTM用のランタイム環境をもつ設計ツールです。
PROFIBUS (PROcess Field BUS)	フィールドバスプロトコルのプロファイル (FMS, DP V0, DP V1, DP V2) の種類で、共通のネットワーク層とトークンによるプロトコルを使用します。

1 概 要

1.1 FDT/DTMとは

(1) FDT

マスタ局を経由し、PROFIBUS-DP上のスレーブ局へ下記の操作などを行うツールです。

- ・スレーブ局のパラメータ書込み／読出し
- ・スレーブ局の状態モニタ

(2) DTM

FDTを使用する場合に、通信設定およびスレーブ局のパラメータなどを定義するファイルです。

DTMは、通信DTMとデバイスDTMとで構成されています。

- ・通信DTM
マスタ局を経由する時に必要となる通信設定を定義するためのファイルです。
- ・デバイスDTM
スレーブ局に設定するパラメータなどを定義するためのファイルです。

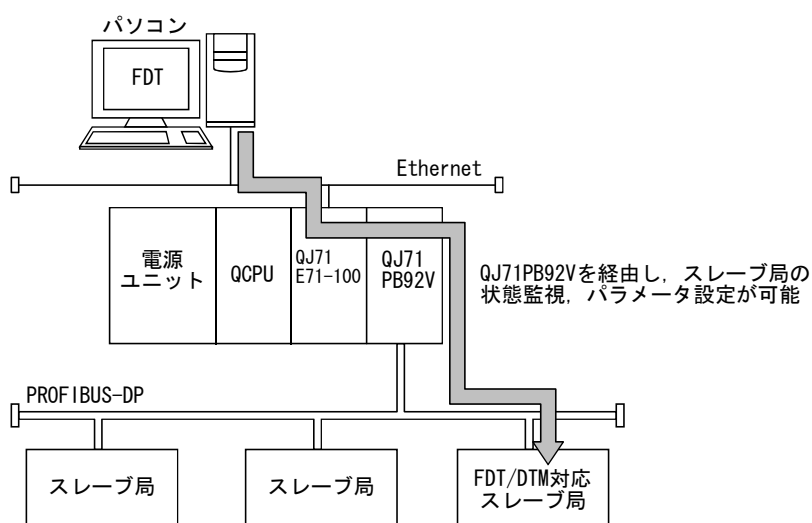


図 1-1 FDT／DTMの動作イメージ

1.2 QJ71PB92V用通信DTM

1

MELSOFT PROFIBUS CommDTMは、通信デバイスタイプマネジャー（通信DTM）であり、フィールドデバイスツール（FDT）仕様バージョン1.2に準拠しています。

三菱電機シーケンサのQシリーズ用QJ71PB92V PROFIBUS-DPマスタユニットと共に使用します。

QJ71PB92VはPROFIBUS-DPのマスタ局として動作できます。

本製品は、マスタ局(QJ71PB92V)を経由し、スレーブ局へのアクセスが可能です。

通信DTMは、マスタ局を装着しているシーケンサへの接続、デバイスDTMからのAcyclic通信を処理します。

本通信DTMは、Acyclic通信（Class2サービス）の“INITIATE”，“READ”，“WRITE”，“ABORT”のPROFIBUS-DPサービスに対応しています。

また，“Set Slave Address”のサービスにも対応していますので、PROFIBUS-DPスレーブデバイスのFDLアドレスを変更できます。

MELSOFT PROFIBUS CommDTMは、FDTアプリケーション（FieldCareなど）内で使用し、スタンドアローン（独立型）のアプリケーションとしては起動できません。

(1) パソコンとシーケンサCPUの接続方法

MELSOFT PROFIBUS CommDTMを使用したときは、パソコンとシーケンサCPUは下記の接続が可能です。

- ・COMポートから、シーケンサCPUまたはMELSECNET/10のリモートI/O局
- ・USBポートから、シーケンサCPU
- ・Ethernetインタフェースから、QJ71E71（Ethernetインタフェースユニット）

接続したシーケンサCPUからMELSECNET/10（PC間ネット）を経由して、他局のシーケンサCPUに接続することもできます。

2 はじめる前に

2.1 詳しい情報について

MELSOFT PROFIBUS CommDTMを使用するには、FDT仕様1.2対応のFDTがインストール済みであり、その操作を熟知している必要があります。

また、接続するPROFIBUS-DPのスレーブについての詳細を知っている必要があります。接続するPROFIBUS機器の詳細については、各メーカーのホームページなどを参照してください。

QJ71PB92V PROFIBUS-DPマスタユニットについては、PROFIBUS-DPマスタユニットユーザーズマニュアル（詳細編）を参照してください。

2.2 ハードウェア設定

QJ71PB92Vは、Qシリーズシーケンサ用のベースユニットに装着してください。

通信DTMを使用するために、特別なシーケンスプログラムは必要ありません。

ただし、通信DTMをお使いになる前に、GX Configurator-DPを用いてQJ71PB92Vにパラメータ設定^(*)をダウンロードしておく必要があります。

*1 該当局とI/O交信する必要がない場合は、バスパラメータのみの設定でかまいません。

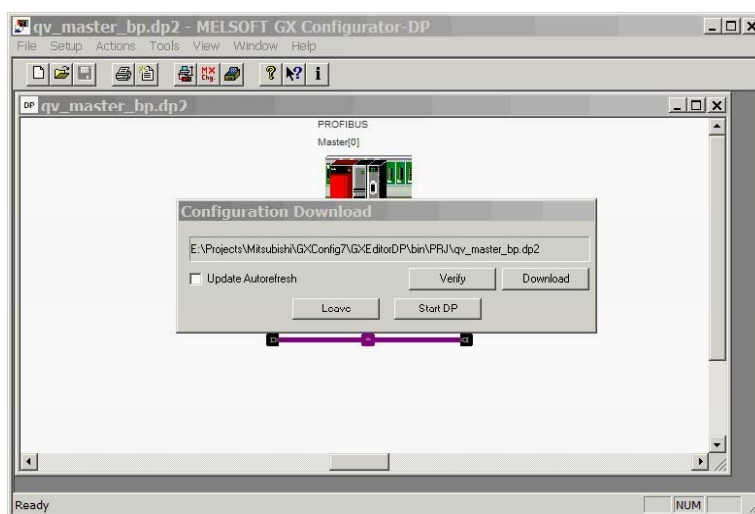


図 2-1 GX Configurator-DPでバスパラメータのダウンロード

2.3 ソフトウェアの準備

MELSOFT PROFIBUS CommDTMを使用するには、下記のソフトウェアが必要です。

(1) FDT

FDT仕様1.2対応のFDTをご用意ください。

FDTの詳細は、下記ホームページを参照してください。

・FDT Joint Interest Group : <http://www.fdt-jig.org/>

(2) デバイスDTM

ご使用のスレーブ局のデバイスDTMを、ご用意ください。

スレーブ局のデバイスDTMは、ご使用のスレーブ局のメーカーにお問い合わせください。

ポイント

デバイスDTMによっては複数ユニットを同時にモニタ、書き込みできないことがあります。

詳細については、各スレーブ局のメーカーにお問い合わせください。

3 システムの動作環境

3.1 動作環境

通信DTMはFDT内で使用するため、動作環境はFDTと通信DTMの、両方の動作環境を満たしている必要があります。

FDTの動作環境については、ご使用されるFDTのマニュアルを参照してください。

下記に、通信DTMの動作環境を示します。

項 目	内 容
パソコン	PentiumⅡ 350MHz以上
必要メモリ	32Mバイト以上*1
ハードディスク空き容量	100Mバイト以上
ディスクドライブ	CD-ROMドライブ必須
ディスプレイ	17型/43cm diag. VGAモニタ 解像度640×480ドット以上
通信用インタフェース	シーケンサシステムとの交信に必要なシリアルポート、またはその他の対応通信インタフェース (USB, Ethernet)

*1 Windows NT[®] Workstation 4.0およびWindows[®] 2000 Professional使用時は64MB以上を、Windows[®] XP ProfessionalおよびWindows[®] XP Home Edition使用時は128MB以上を推奨します。

3.2 ソフトウェア要求条件

MELSOFT PROFIBUS CommDTMは、以下のオペレーティングシステムで動作します。

- Microsoft® Windows® 98 Operating System (英語版)
- Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System (英語版)
- Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 (英語版)
- Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System (英語版)
- Microsoft® Windows® XP Professional Operating System (英語版)
- Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System (英語版)

3

ポイント
<ul style="list-style-type: none"> • Windows NT® Workstation 4.0使用時は、Service Pack 6以上が必要です。 • Windows® 2000 Professional使用時は、Service Pack 2以上が必要です。 • Windows® 2000 Professional, Windows® XP ProfessionalまたはWindows® XP Home Editionのご使用を推奨します。 • Windows® XP ProfessionalまたはWindows® XP Home Edition以外のOS使用時は、Internet Explorer 5.5および Microsoft® Windows® Installer 2.0のインストールが必要です。 • Windows® XPの新機能について Microsoft® Windows® XP Professional Operating System, Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating Systemをご使用の場合は、下記に示す新機能が使用できません。 下記に示す新機能を使用した場合、本製品は正常に動作しない可能性があります。 <p>Windows® 互換モードでのアプリケーション起動 ユーザ簡易切替え リモートデスクトップ 大きいフォント (画面プロパティの詳細設定)</p>

3.3 著作権

重 要
<p>このソフトウェアは著作権で保護されています。</p> <p>この販売されたディスクパッケージを操作されることにより自動的にこのライセンス契約の条件に承諾されたことになります。</p> <p>オリジナル・ディスクのコピーは、ユーザ自身のバックアップおよび保管用として1枚だけ複写することが許されています。</p>

4 MELSOFT PROFIBUS CommDTMのインストール・アンインストール

4.1 ソフトウェアのインストール

通信DTMのインストールは、対応するmsiファイル（*1）のダブルクリックで始まります。

*1 d:\¥CommDTM¥GXDPV1ComDtmSetup.msi

複数のユーザが本通信DTMを使用する場合は、インストール時に“Everyone”を選択してください。

通信DTMのインストールには、空いているディレクトリを選択してください。

ポイント

GX Configurator-DPと同じディレクトリに通信DTMをインストールしないでください！

4

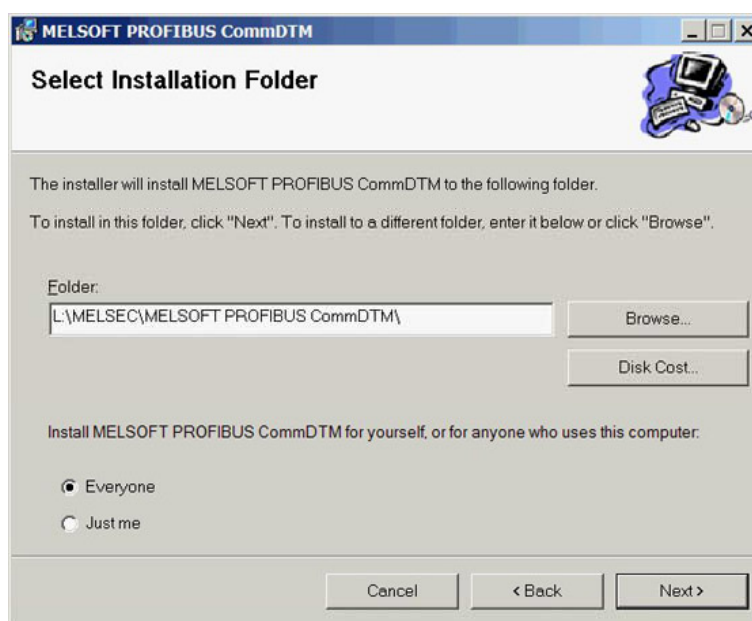


図 4-1 MELSOFT PROFIBUS CommDTMのインストールダイアログボックス

4.2 アンインストール

コントロールパネルの「Add or Remove Programs」^(※1) システムダイアログボックスを開き，“MELSOFT PROFIBUS CommDTM”のエントリを選びます。

“Remove”を選択すると，通信DTMはアンインストールされます。

“Change”を選択すると，次のようなダイアログボックスが表示されるので，その通信DTMを修正するのかアンインストールするのかを選択できます。

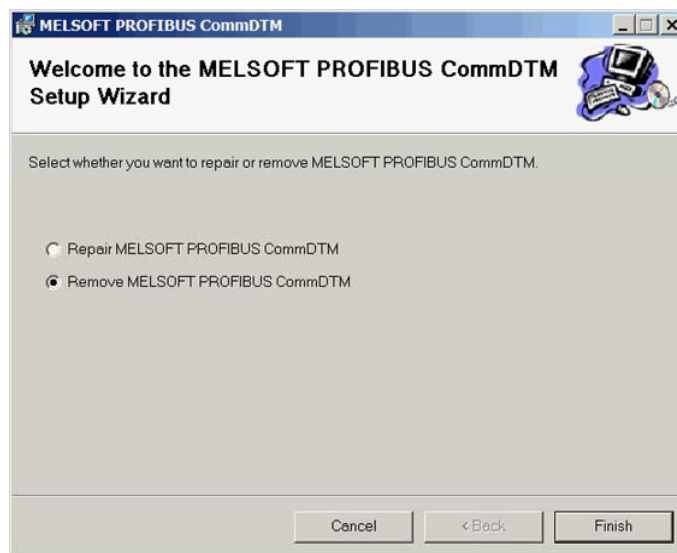


図 4-2 「プログラムの追加と削除」^(※1)で“Change”を選択した場合のダイアログボックス

※1 下記OS使用時は，「Add/Remove Programs」システムダイアログボックスを開きます。

- Microsoft® Windows® 98 Operating System
- Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System
- Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0
- Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System

5 通信DTMの使用法

通信DTMはFDT内でのみ使用することができ、そのFDTはFDT仕様バージョン1.2に準拠していなければなりません。

通信DTMの使用法をよりわかりやすくするために、以下の説明ではFDTの例としてEndress+Hauser社のFieldCareを使用します。

その他のFDTと動作が異なる場合がありますので、各FDTのマニュアルを参照してください。

5.1 DTMカタログをアップデート

FieldCareで通信DTMを使用するには、まずDTMカタログをアップデートする必要があります。

それには、[DTM Catalog]→[Update...]メニューを選択します。

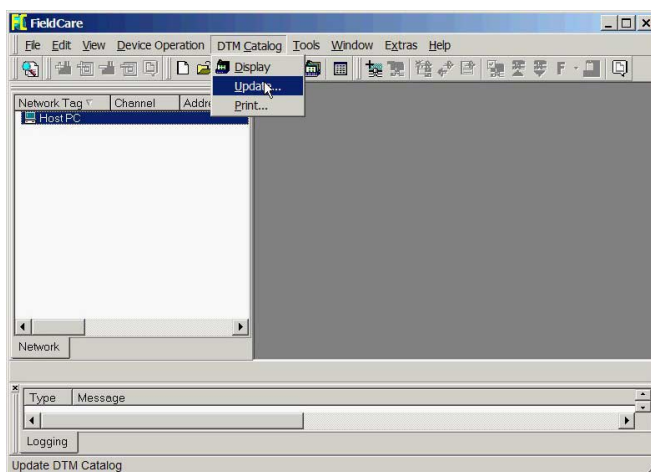


図 5-1 FDTアプリケーションFieldCareでDTMカタログのアップデートを選択

[Update] ボタンをクリックすると、各DTMがアップデートされます。

アップデート後、DTMの中から使用するDTMを選択して [Move>>] ボタンをクリックし、右のウィンドウに移動させてから [OK] ボタンをクリックして登録します。

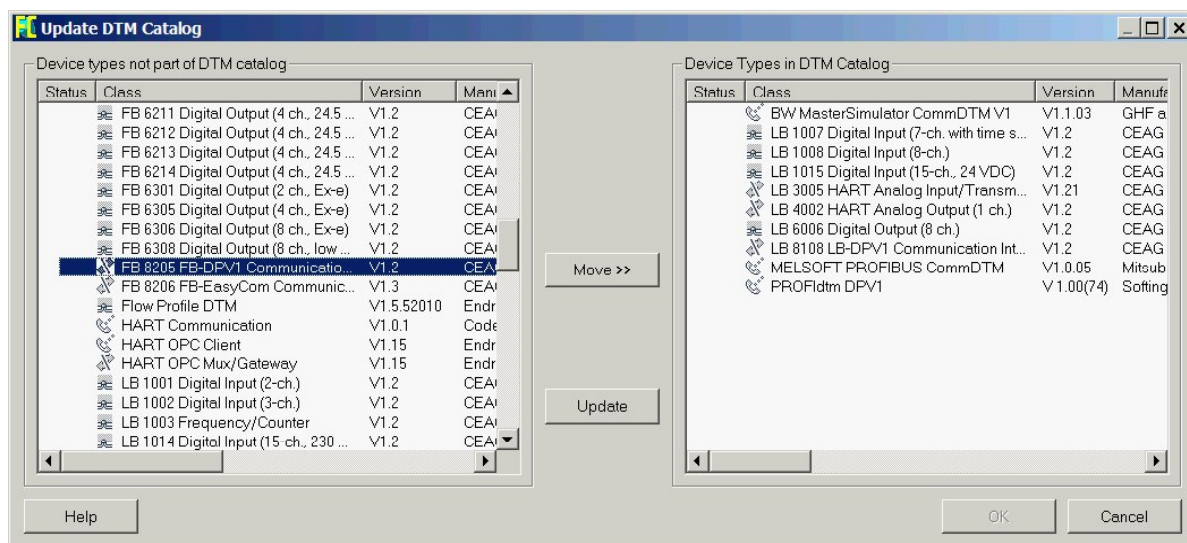


図 5-2 “Update DTM Catalog” ダイアログボックスと新たに確認されたDTMをカタログへ移動

5.2 通信DTMをFieldCareプロジェクトへ追加

新規のプロジェクトを開いた後、左側のツリーからPCノードを選択し、コンテキストメニューから[Add Device...]メニューを選ぶことにより、プロジェクトで使用する通信DTMを追加します。

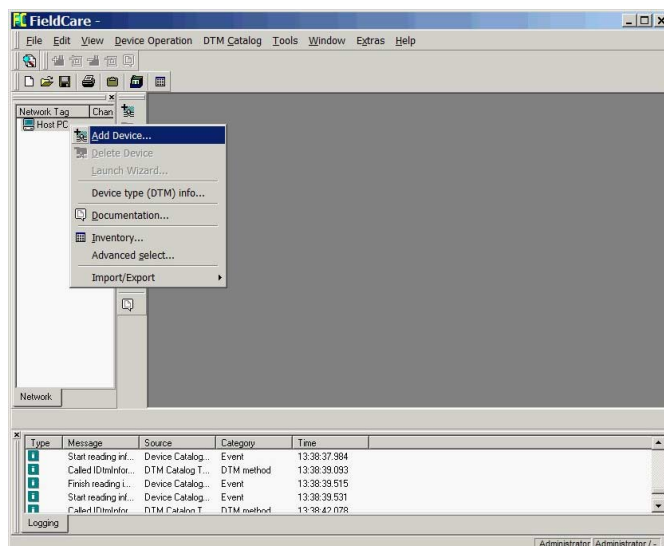


図 5-3 コンテキストメニューの[Add Device...]メニュー

FDTに確認されている通信DTMは、リストで表示されます。
このリストからMELSOFT PROFIBUS CommDTMを選んでください。

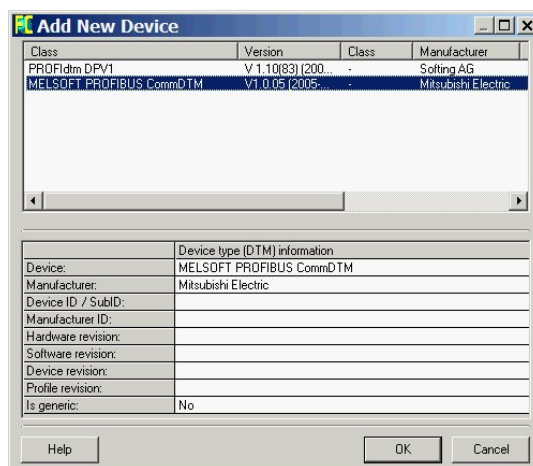


図 5-4 通信DTMのリスト

5.3 通信DTMの設定（“Transfer Setup”）

通信DTMとQJ71PB92Vの接続を設定します。

接続パラメータは、通信DTMがマスタ局にアクセスできるようになる前に、設定しなければなりません。

設定ダイアログボックスを開くには、通信DTMノードのコンテキストメニューから[Configuration]メニューを選択します。

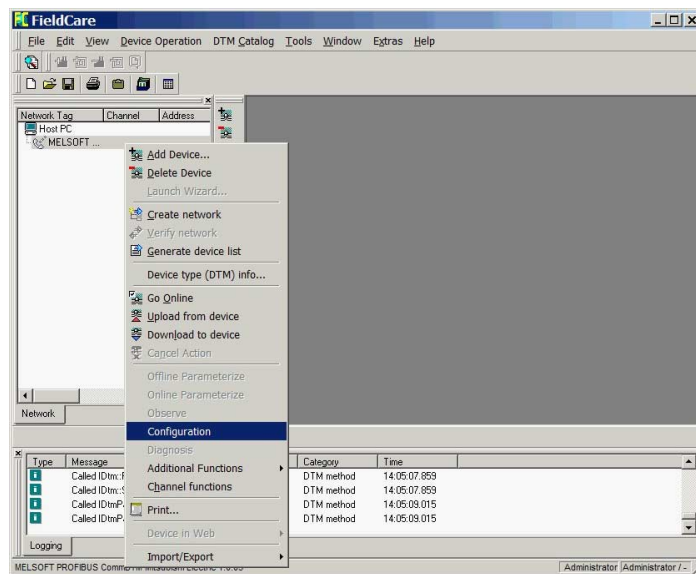


図5-5 コンテキストメニューの[Configuration]メニュー

5.4 新規ネットワーク経路の定義

一つの通信DTMの設定は複数の通信経路を含むことができ、それは異なるマスタ局や同じマスタ局への様々な接続を意味します。

新規の通信経路は、“MELSOFT PROFIBUS CommDTM (Configuration)” ダイアログボックスの **Define** ボタンを押すことにより作成されます。

まだ通信経路がひとつも定義されていない場合には、ダイアログボックスが表示されると同時に定義が開始されます。

Delete ボタンを押すと、選択した通信経路が削除されます。

設定できるのはQシリーズシーケンサへの接続のみです。

次のようなパソコンとシーケンサ間の接続が可能です。

- ・ COMポート (RS-232) から QCPU へ
- ・ USBポートから QCPU へ
- ・ Ethernet インタフェースから QJ71E71 へ

接続したシーケンサから MELSECNET/10 (PC間ネット) を経由する他局シーケンサへの接続も ^(*)1, 設定可能です。

*1 シーケンサから MELSECNET/10 (リモート I/O ネット) を経由する他局シーケンサへの接続はできません。

パソコンと MELSECNET/10 のリモート I/O 局を接続することは可能です。

ポイント
MELSECNET/HのリモートI/Oネット使用時の制約事項
① 接続は、パソコンのCOMポートとQJ72LP25-25, QJ72LP25GまたはQJ72BR15のRS-232コネクタとの接続をサポートします。

5.4.1 ネットワーク名

テキスト欄にネットワークの名前を入力してください。

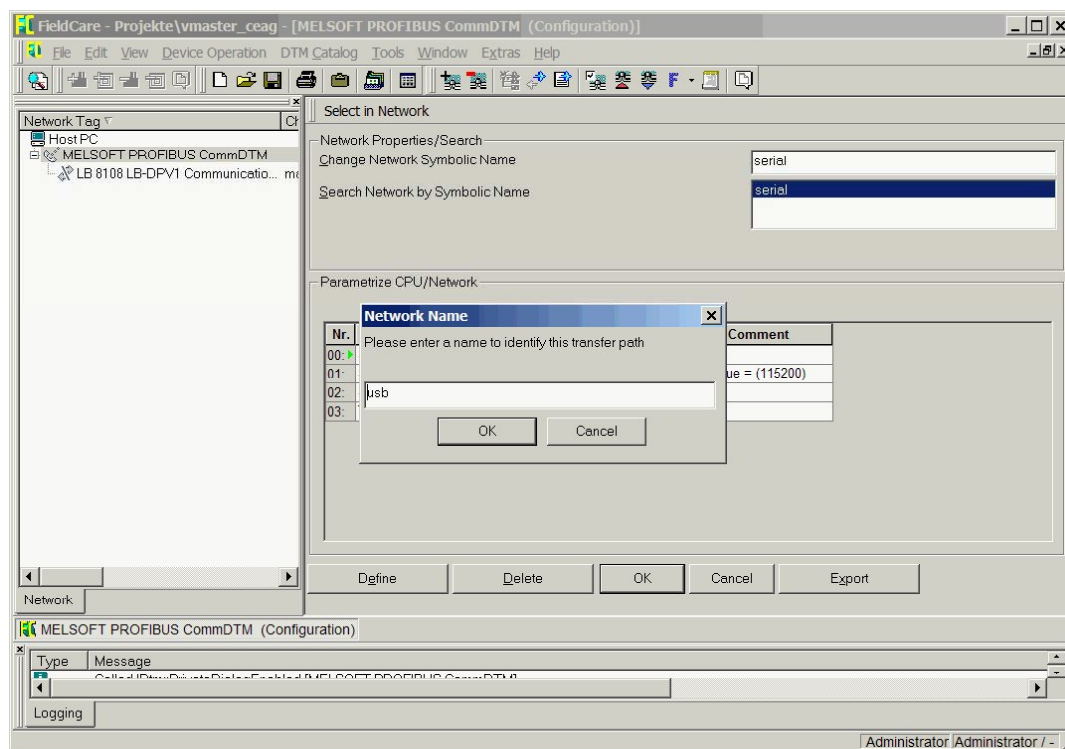


図 5-6 [Configuration]メニューの“Network Name”ダイアログボックス

ネットワーク名は1つの転送経路の設定を識別するために使用されるため、重複はできません。

5.4.2 ユニットの選択

パソコンと接続しているユニットを選択します。

専用のプログラミングケーブルでCPUポート接続かEthernetボード接続か、どちらか一方のアクセス方法が可能です。

下図では、CPUポート接続が選択されています。

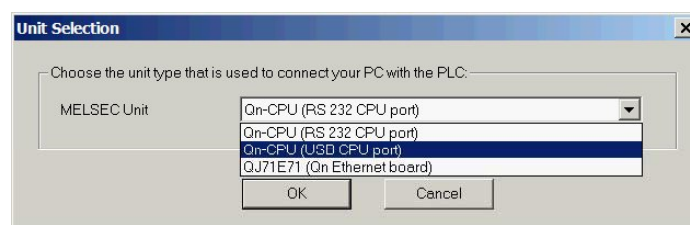


図 5-7 [Configuration]メニューの“Unit Selection”ダイアログボックス

5.4.3 ネットワークの選択

パソコンとシーケンサとの接続方法を選択した後、MELSECNET/10（PC間ネット）経由でマスタ局にアクセスするかどうかを選択します。

マスタ局は対象CPUと同じベースユニットか、またはMELSECNET/10（PC間ネット）を経由してアクセスできる他局のベースユニットに装着できます。

下図では、ローカルへの装着が選択されています。

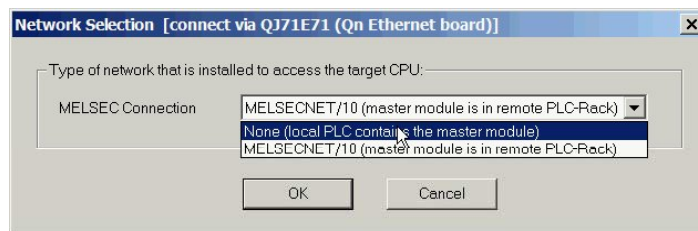


図5-8 [Configuration]メニューの“Network Selection”ダイアログボックス

ネットワーク接続のパラメータはデフォルト値に設定されています。

それらの値はネットワークプロパティの表中で、直接変更することができます。

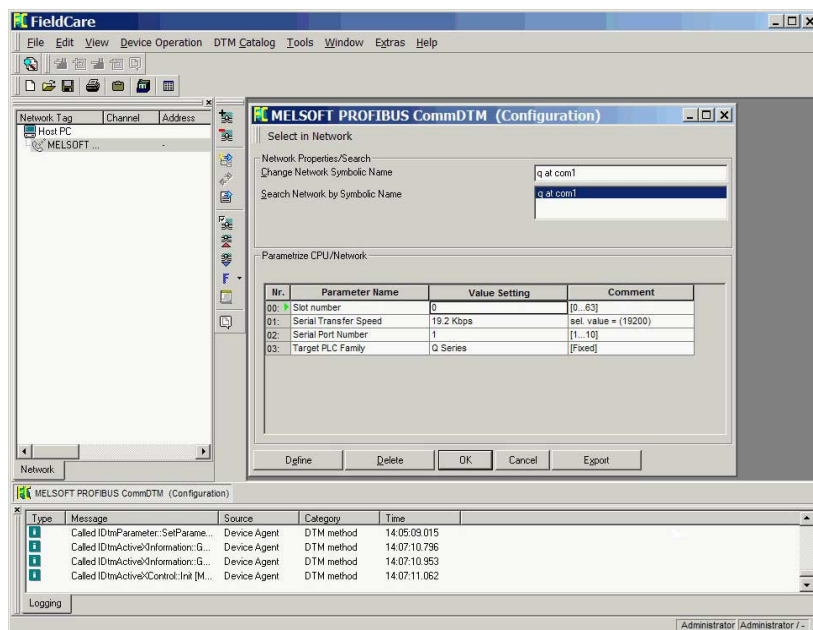


図5-9 ネットワーク接続用設定値を変更する

ポイント

QJ71PB92Vの場合、COMポート接続でより高速にアクセスするためには、伝送速度をデフォルト（19.2kbps）以上に設定してください。

5.5 デバイスの追加

MELSOFT PROFIBUS CommDTMのインスタンスの作成後、ユーザは別のDTMをDTMカタログから選択して通信DTMに追加できます。

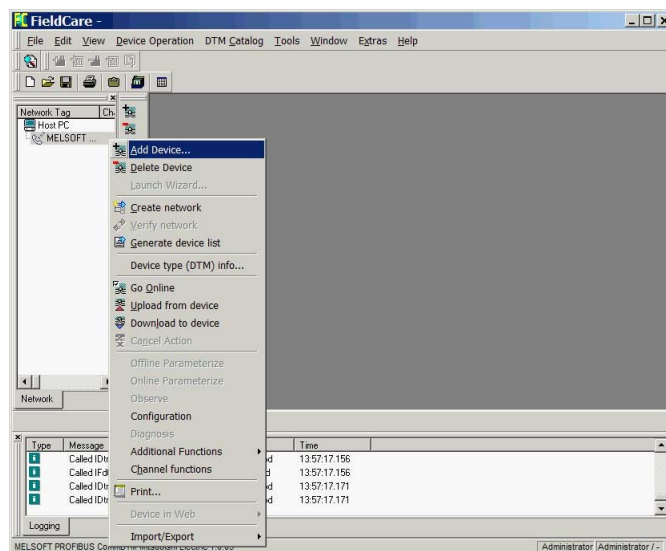


図 5-10 スレーブDTMを追加

FDTフレームワークは、QJ71PB92Vが対応しているDTMのみを表示します。

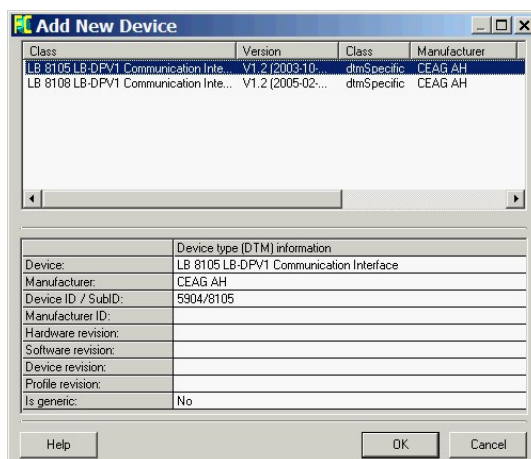


図5-11 カタログからDTMを選択する

スレーブ局用のDTMを追加するときに、FDLアドレスのデフォルト値が126の場合は、新しいFDLアドレスを割り当てるように要求されます。

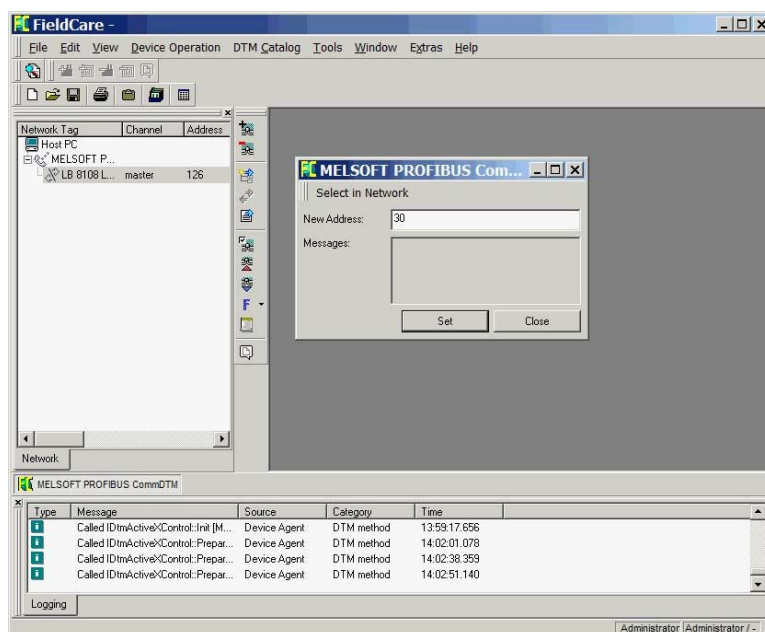


図5-12 スレーブDTMに新規FDLアドレスを設定する

同じ方法で、その他スレーブ局のデバイス用、またはスレーブ局のユニット用のDTMを追加できます。

5.6 オンライン接続

実際にDTMをデバイスに接続するためには、DTMノードを選択してコンテキストメニューを開きます。

そこから[Go Online]メニューを選択すると、そのDTMに対応するデバイスへ接続されます。

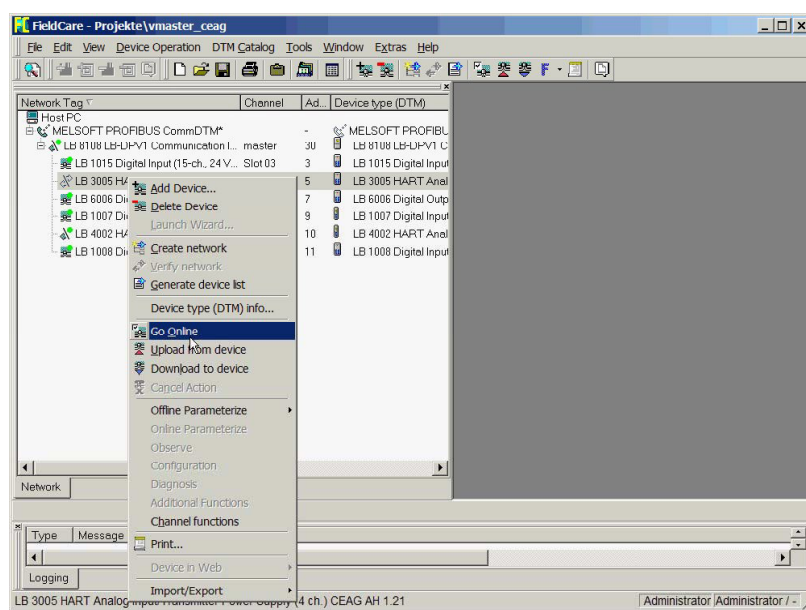


図 5-13 DTMをデバイスに接続する ([Go Online]メニュー)

デバイスが接続されると、各デバイスDTMのメニューにある各オンライン機能が使用可能になります。

5.7 追加機能

[Additional Functions]メニューにより、MELSOFT PROFIBUS CommDTMにより提供されている機能（スレーブ局にダウンロードされたFDLアドレスの変更など）を選択できます。

デバイスを選択し、マウスを右クリックしてコンテキストメニューを開いてください。

追加機能を選択して必要なMELSOFT PROFIBUS CommDTMの機能を選択します。

5.7.1 プロジェクトが管理するスレーブ局のFDLアドレスを変更

通信DTMに添付された該当デバイスDTMでスレーブ局のFDLアドレスを変更するには、通信DTMのコンテキストメニューから[Edit DTM Station Addresses]メニューを選択します。

表には、その通信DTMに接続されているすべてのDTMが、現在設定されているFDLアドレスと共にリスト表示されます。

登録デバイスが選択されたとき、新たにFDLアドレスの割当て（デバイスDTMの更新）ができます。

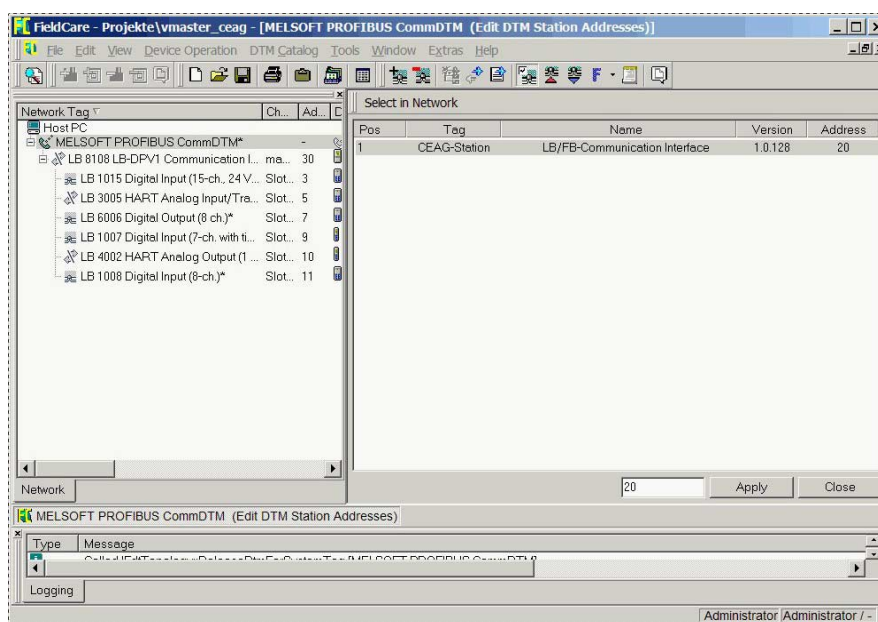


図 5-14 “Edit DTM Station Addresses” 機能のための入力用マスク

5.7.2 スレーブ局にダウンロードされたFDLアドレスを変更

各スレーブ局がこのサービスをサポートしていれば、PROFIBUSに実際に接続されているスレーブ局のFDLアドレスを変更できます。

スレーブ局のFDLアドレスを変更するには、下記の情報を入力しなければなりません。

- ・現在のFDLアドレス（“Old Address”）
- ・新しいFDLアドレス（“New Address”）
- ・対象スレーブ局のIdent Number（“Ident. No.”）

(1) FDLアドレスの変更操作

- ① “Old Address” に現在のFDLアドレスを入力します。
デバイスDTMがスレーブ局に追加されて、FDLアドレスが正しく設定されていると、“Ident. No.” にデバイスDTMのIdent Numberが表示されます。
- ② “New Address” に新しいFDLアドレスを入力します。
- ③ 対象スレーブ局のマニュアルまたはGSDファイルを参照して、“Ident. No.”のIdent Numberが間違っていないか確認します。
“Ident. No.” が空欄または間違っていたら、正しいIdent Numberに修正してください。
- ④ **Set** ボタンをクリックすると、FDLアドレスが変更されます。

ポイント

FDLアドレスを変更するときに“Ident. No.” の設定が間違っている場合、エラーが表示されませんが、FDLアドレスは変更されていませので、注意してください。

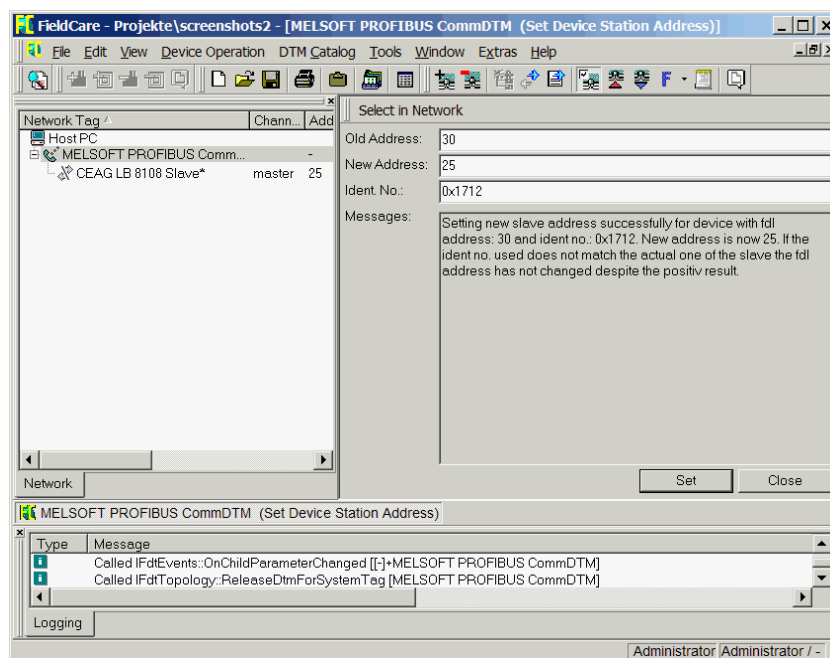


図 5-15 “Set Device Station Address” 機能のための入力用マスク

6 トラブルシューティング

6.1 DTMカタログをアップデート後、インストールした通信DTMがリスト表示されない

(1) 状態

MELSOFT PROFIBUS CommDTMを設計用パソコンに正しくインストールし、FieldCareのDTMカタログをアップデートしても、新しいデバイスのリストにインストールした通信DTMが表示されません。

(2) 解決法

- ① 通信DTMをインストールしたディレクトリで、コマンドプロンプトを開きます。
- ② 次のコマンドを実行します。 : `regsvr32 profivlcommmdtm.dll`
- ③ FieldCareを再起動し、[DTM Catalog]→[Update...]メニューを選択すると、新規にインストールした通信DTMが確認できます。

6.2 QJ71PB92Vへの接続に失敗する

(1) 状態

通信DTMのコンテキストメニューから[Go Online]メニューを選択しても、接続できません。

(2) 解決法

通信DTMには別の通信テスト用の機能がないので、GX Configurator-DPを起動し、同じネットワーク経路を定義し、**Test PLC** ボタンを押します。
この方法でも失敗する場合は、GX Configurator-DPにおける通信異常のトラブルシューティング手順に従ってください。（配線、COMポートまたはIPアドレスの番号、マスタ局のスロット番号をチェックしてください。）

6.3 デバイスDTMが対応するスレーブ局に接続できない

(1) 状態

通信DTMはマスタ局に接続できますが、デバイスDTMは対応するスレーブ局のアクセスに失敗します。

このとき、次のようなエラーメッセージが表示されます。



図 6-1 デバイスDTMがスレーブ局への接続に失敗する

(2) 解決法

デバイスDTMに設定されたFDLアドレスを確認し、実際のスレーブ局のFDLアドレスと比較してください。

6.4 スレーブ局のFDLアドレスの設定に失敗する

(1) 状態

通信DTMはマスタ局に接続できますが、接続されたスレーブ局のFDLアドレスの変更に失敗します。

このとき、次のようなエラーメッセージが表示されます。

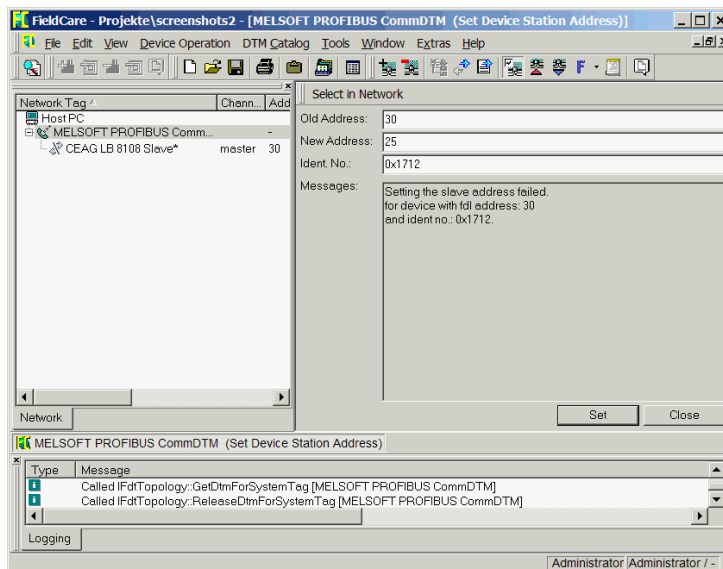


図 6-2 “Set Device Station Address” 機能実行後のエラーメッセージ

(2) 解決法

各スレーブ局にアクセス中の、すべての通信DTMとの接続をオフラインにします。それから、FDLアドレスを変更し、再びオンラインにします。

6.5 実行中だったスレーブ局との通信ができなくなる

(1) 状態

デバイスDTMとスレーブ局間の通信中に、次のメッセージボックスが表示される。

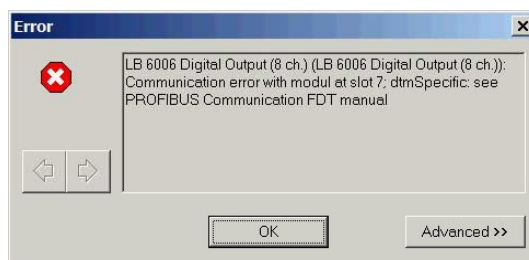
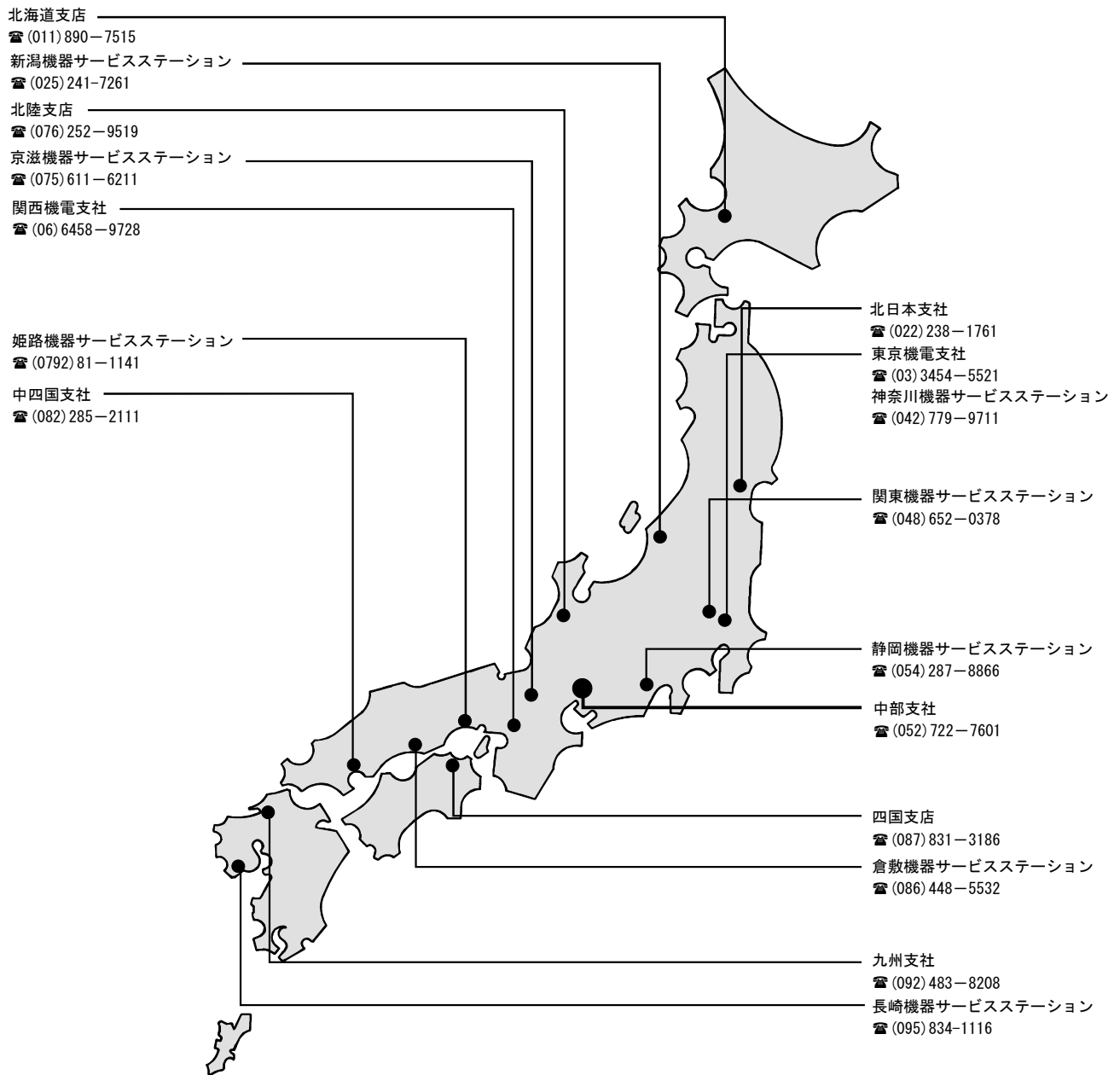


図 6-3 通信異常

(2) 解決法

OK ボタンを押してメッセージボックスを閉じ、問題のデバイスDTMをオフラインにセットしてから、再びオンラインにします。

サービスネットワーク（三菱電機システムサービス(株)）



Microsoft, Windows, WindowsNTは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium, Celeronは、Intel Corporationの米国およびその他の各国における商標および登録商標です。

Ethernetは、米国Xerox.co.ltdの登録商標です。

その他、本文中における会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

GX Configurator-DP

オペレーティングマニュアル(CommDTM編)



三菱電機株式会社 〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-2-3(三菱電機ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部	〒104-6215	東京都中央区晴海1-8-12(オフィスタワーZ棟15階)	(03)6221-2190
北海道支社	〒060-8693	札幌市中央区北二条西4-1(北海道ビル)	(011)212-3792
東北支社	〒980-0011	仙台市青葉区上杉1-17-7(仙台上杉ビル)	(022)216-4546
関東支社	〒330-6034	さいたま市中央区新都心11番地2(明治安田生命さいたま新都心ビルランド・アクセス・タワー34F)	(048)600-5835
新潟支店	〒950-8504	新潟市東大通2-4-10(日本生命ビル)	(025)241-7227
神奈川支社	〒220-8118	横浜市西区みなとみらい12-2-1(横浜ランドマークタワー)	(045)224-2624
北陸支社	〒920-0031	金沢市広岡3-1-1(金沢パークビル)	(076)233-5502
中部支社	〒450-8522	名古屋市中村区名駅3-28-12(大名古屋ビル)	(052)565-3314
豊田支店	〒471-0034	豊田市小坂本町1-5-10(矢作豊田ビル)	(0565)34-4112
関西支社	〒530-8206	大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル)	(06)6347-2771
中国支社	〒730-0037	広島市中区中町7-32(日本生命ビル)	(082)248-5445
四国支社	〒760-8654	高松市寿町1-1-8(日本生命高松駅前ビル)	(087)825-0055
九州支社	〒810-8686	福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル)	(092)721-2247

インターネットによる三菱電機FA機器技術情報サービス

MELFANSwebホームページ: <http://www.MitsubishiElectric.co.jp/melfansweb>

MELFANSwebのFAランドでは、体験版ソフトウェアやソフトウェアアップデートのダウンロードサービス、MELSECシリーズのオンラインマニュアル、Q&Aサービス等がご利用いただけます。FAランドのID登録(無料)が必要です。

電話技術相談窓口

対 象 機 種		電 話 番 号	受 付 時 間 ¹	
MELSEC-Q/QnA/A	シーケンサ一般 (ネットワーク/インテリジェント機能ユニット以外)	052-711-5111	月曜～木曜 金曜	9:00～19:00 9:00～17:00
	ネットワーク、シリアルコミュニケーションユニット	052-712-2578		
	インテリジェント機能ユニット(ネットワーク以外)	052-712-2579		
MELSOFTシーケンサ プログラミングツール	MELSOFT GXシリーズ	052-711-0037		
	SW IVD-GPPA/GPPQなど			
MELSOFT通信支援 ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ	052-712-2370		
	SW D5F-CSKP/OLEX/XMOPなど			
MELSEC/パソコンボード	Q80BDシリーズなど	052-712-2830		
MELSEC計装/Q二重化	プロセスCPU(Q12/Q25PHCPU)			
	二重化CPU(Q12/Q25PRHCPU)			
	MELSOFT PXシリーズ			
GOT表示器	GOT1000/A900シリーズなど	052-712-2417		
	MELSOFT GTシリーズ			

FAX技術相談窓口

対 象 機 種	F A X 番 号	受 付 時 間 ¹
上記対象機種	052-719-6762	9:00～16:00(受信は常時 2)

1: 土・日・祝祭日、春期・夏期・年末年始を除く通常業務日
2: 春期・夏期・年末年始を除く

形名	GXDP-COMMDTM-O-J
形名 コード	13JV86
SH(名)-080581-A(0508)MEE	

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。

この印刷物は2005年8月の発行です。なお、お断りなしに仕様を変更することがありますのでご了承ください。

この標準価格には消費税は含まれておりません。ご購入の際には消費税が付加されますのでご承知をお願いします。

2005年8月作成
標準価格 1,000円